

安全データシート

改定日: 2022年8月29日

1. 製品及び会社情報

化学品の名称
推奨用途
会社名
住所
電話番号

水酸化カルシウム
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
CC0014

整理番号

2. 危険有害性の要約

GHS分類
健康に対する有害性

皮膚腐食性及び刺激性: 区分2
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性: 区分1
特定標的臓器・全身毒性: 区分1(呼吸器系)
(単回ばく露)

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
皮膚刺激
重篤な眼の損傷
呼吸器系の障害

注意書き

【安全対策】
粉じん/煙を吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
【応急措置】
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚に付着した場合、汚染された衣類を脱ぐこと。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用している場合は外し、その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師に相談すること。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
【保管】
容器を密閉して涼しく換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名
別名
化学式
化学物質を特定できる一般的な番号
成分及び含有量
官報公示整理番号(化審法、安衛法)
その他

化学物質
水酸化カルシウム
消石灰
 Ca(OH)_2
CAS RN: 1305-62-0
95%以上
(1)-181
HSコード: 2522.20

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分の悪い時は、医師の診断/手当を受けること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を脱ぐこと。
皮膚を速やかに洗浄すること。
多量の水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当を受けること。
気分の悪い時は、医師の手当て/診断を受けること。

眼に入った場合

汚染された衣類は、再使用する前に洗濯すること。
水で数分間注意深く洗い、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

気分の悪い時は、医師の診断/手当を受けること。
口をすすぐこと。

予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

気分の悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
[吸入] 咽頭痛、咳、灼熱感
[皮膚] 刺激、発赤、ざらつき、痛み、皮膚の乾燥、皮膚熱傷、薬傷、水泡
[眼] 発赤、痛み、重度の薬傷
[経口摂取] 灼熱感、腹痛、胃痙攣、嘔吐

5. 火災時の措置

適切な消火剤	小火災: 粉末消火剤、二酸化炭素、散水 大火災: 粉末消火剤、二酸化炭素、耐アルコール性泡消火剤、散水 棒状放水
使ってはならない消火剤	火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の危険有害性	加熱により容器が爆発するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器内に水を入れてはいけない。 消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付ノズルを用いて消火する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
特有の消火方法	
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。 風上に留まる。 低地から離れる。 密閉された場所は換気する。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 環境中に放出してはならない。 乾燥した土、砂あるいは不燃性物質で吸収し、あるいは覆って容器に移す。漏洩物を掃き集めて空容器に回収する。 排水溝、下水道、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 容器内に水を入れてはいけない。 床面に残ると滑る危険性があるため、こまめに処理する。
環境に対する注意事項	
封じ込め及び浄化の方法及び機材	
二次災害の防止策	
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
安全取扱い注意事項	接触、吸入又は飲み込まないこと。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 強酸化剤、酸類。水の存在下で多くの金属を侵す。
接触回避	
保管	
技術的対策	該当情報なし
安全な保管条件	容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。 施錠して保管すること。
容器包装材料	ポリプロピレン、ポリエチレン
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	TLV-TWA: 5mg/m ³
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 高熱工程で粉じん、ヒュームが発生する時は空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
目の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	結晶又は粉末
色	無色又は白色
臭い	該当情報なし。
融点/凝固点	580°C(分解)
沸点又は初留点及び沸点範囲	該当情報なし。
燃焼性	該当情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	不燃性
引火点	不燃性
自然発火温度	607°C
分解温度	580°C
pH	12.4(25°C飽和水溶液)
動粘性率(粘度)	該当情報なし。
溶解度	0.14g/100mL(水・25°C)
n-オクタノール/水分分配係数	該当情報なし。

蒸気圧		該当情報なし。
密度及び/又は相対密度		2.2g/cm ³ (20℃)
相対ガス密度		該当情報なし。
蒸発速度		該当情報なし。
10. 安定性及び反応性		
反応性、化学的安定性		加熱すると分解し、酸化カルシウムを生じる。 大気中で炭酸ガスを吸収し、漸次炭酸カルシウムとなる。 酸類と反応し発熱する。 強酸化剤と反応する。 水の存在下で多くの金属を侵し、引火性/爆発性のガス(水素)を生成する。 空気との接触、加熱。 強酸化剤、酸類。水の存在下で多くの金属を侵す。 酸化カルシウム
危険有害反応可能性		
避けるべき条件		
混触危険物質		
危険有害な分解生成物		
11. 有害性情報		
急性毒性		〔経口〕ラットを用いた経口投与試験の LD50=7,340mg/kgとの報告(ACGIH(7th,2001),HSDB(Access on September 2014))に基づき区分外とした。 〔経皮〕該当情報なし。 本物質は強塩基性物質(pH10.9-11.9(EPA Pesticide(2005)))であり、中程度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある(ACGIH(7th,2001))。また本物質は、ヒトの皮膚に対して中程度の刺激性を示すとの記載(IUCLID(2000))や、軽度の刺激性を示す(EPA Pesticide(2005))との記載がある、以上の情報から本物質は強塩基性物質であるが、皮膚への影響は「中程度又は軽度」との記載から区分2とした。 本物質は強塩基性物質であり、身体表面に中程度の腐食又は刺激作用を持つとの記載がある。また、眼に対して腐食性を示す(IUCLID(2000))との報告や、非可逆的な障害を与える(EPA Pesticide(2005))との記載がある。以上より区分1とした。 〔呼吸器感作性〕該当情報なし。(分類できない) 〔皮膚感作性〕該当情報なし。(分類できない) 該当情報なし。(分類できない) 該当情報なし。(分類できない) 該当情報なし。(分類できない) 本物質は、ヒトの気道刺激性、粘膜腐食性があり、咳、粘膜の火傷、肺水腫、嘔吐、胃痙攣を引き起こすとの報告がある(ACGIH(7th,2001)、EPA Pesticide(2005)、HSDB(Access on September 2014))。以上より区分1(呼吸器)とした。 旧分類ではHSDB、INCLIDの情報源を基に区分2(肺)と分類されたが、反復ばく露影響として分類する根拠として乏しいと判断した。(分類できない) 該当情報なし。(分類できない)
皮膚腐食性及び皮膚刺激性		
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性		
呼吸器感作性又は皮膚感作性		
生殖細胞変異原性		
発がん性		
生殖毒性		
特定標的臓器毒性(単回暴露)		
特定標的臓器毒性(反復暴露)		
誤えん有害性		
12. 環境影響情報		
生態毒性	短期: (急性)	該当情報なし。(分類できない)
	長期: (慢性)	該当情報なし。(分類できない)
残留性・分解性		該当情報なし。(分類できない)
生体蓄積性		該当情報なし。(分類できない)
土壌中の移動性		該当情報なし。(分類できない)
オゾン層への有害性		当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。
13. 廃棄上の注意		
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報		産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意		
国連番号		3262
品名(国連輸送名)		腐食性固体(アルカリ性、無機物)
国連分類		8
容器等級		III
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策		運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実に行う。
国内規制がある場合の規制情報		
陸上輸送		消防法の規定に従う。
海上輸送		船舶安全法の規定に従う。
航空輸送		航空法の規定に従う。
応急措置指針番号		154
15. 適用法令		
化学物質管理促進法(PRTR法)		指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物取締法		毒物及び劇物に該当しない。
労働安全衛生法		名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)〔水酸化カルシウム〕 危険性又は有害性を調査すべき物〔水酸化カルシウム〕 危険物に該当しない。 有害である物質(Z類)(施行令別表第1)
消防法		
海洋汚染防止法		

16. その他の情報
参考文献

NITE－CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)

16615の化学商品(化学工業日報社)

国際化学物質安全性カード(ICSC)

職場のあんぜんサイト(厚労省HP)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。